

コミュニケーション活動につながる英語の文法指導

—中学校で習得する現在及び過去進行相、動名詞、分詞形容詞の用法に関して—

本村洸樹（長崎大学大学院教育学研究科教職実践専攻）

松元浩一・稲毛逸郎・池田俊也・呉屋博（長崎大学大学院教育学研究科）

1. 研究の目的

本実践研究の目的は、生徒が、教師による文法指導に基づいて、英語を用いたコミュニケーション活動を円滑に行うことができるよう授業を構成することである。そのために「コミュニケーション活動につながる英語の文法指導」というテーマを掲げ、研究を行った。具体的には動詞の・ing形を取りあげ、中学校で習得する現在及び過去進行相、動名詞、分詞形容詞用法に関する文法指導が、コミュニケーション活動においてどのように活かされるのかを考察している。

・ingという語形は、現在及び過去進行相、動名詞、分詞形容詞用法という形で中学校3年間を通して扱われる。『中学校学習指導要領解説外国語編』（文部科学省 2011: 47）では、関連のある文法事項を、まとまりをもって整理することを効果的な指導方法の一つとして明示しており、本実践研究を通して、体系的な文法指導の在り方についても考察を行う。

2. 研究の背景

文部科学省は、「今後の英語教育の改善・充実方策について 報告～グローバル化に対応した英語教育改革の五つの提言～」(2014)の中で、今後の英語教育改革における重要な課題を設定している。それは、英語に関する基礎的・基本的な知識・技能とそれらを活用して主体的に課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力の育成である。特に、コミュニケーション能力の育成については、これまで以上の改善が要求されている。すなわち、生徒の中学校段階における教育目標として、「身近な話題についての理解や表現、簡単な情報交換ができるコミュニケーション能力を養う」、「文法訳読に偏ることなく、互いの考えや気持ちを英語で伝え合うコミュニケーション能力の養成を重視する」の2点である。例えば、短い新聞記事を読んだり、テレビのニュースを見たりして、その概要を伝えることができるなど、CEFR A1～A2程度、もしくは英検3級～準2級程度の能力を身につけることが求められている。(表1)

(表1 CEFR A1, A2における熟達度)

A2	ごく基本的な個人情報や家族情報、買い物、地元の地理、仕事など、直接的関係がある領域に関しては、文やよく使われる表現が理解できる。簡単で日常的な範囲なら、身近で日常の事柄について、単純で直接的な情報交換に応じることができる。
A1	具体的な欲求を満足させるための、よく使われる日常的表現と基本的な言い回しは理解し、用いることができる。自分や他人を紹介することができ、住んでいるところや、誰と知り合いであるか、持ち物などの個人的情報について、質問をしたり、答えたりすることができる。もし、相手がゆっくり、はっきりと話して、助けが得られるならば、簡単なやり取りをすることができる。

出典：「ヨーロッパ言語共通参照枠(CEFR)と英語力検定試験」(ブリティッシュカウンシル 2016年12月21日参照) <https://www.britishcouncil.jp/sites/default/files/pro-ee-lesson-level-cefr-jp.pdf>

一方で、コミュニケーション能力の育成を図るためには、それを支える言語材料についての理解や、定着のための練習が不可欠であり、文法指導がその役割を果たしていると言える。『中学校学習指導要領解説外国語編』(文部科学省 2011: 31)では「文法については、コミュニケーションを支えるものであることを踏まえ、言語活動と効果的に関連付けて指導すること」と述べられており、コミュニケーション活動を充実させる手段として、文法指導の在り方を改善していくことが求められている。

教師による文法指導については、冒頭でも述べたように、『中学校学習指導要領解説外国語編』(文部科学省 2011: 47)において、関連のある文法事項をまとまりをもって整理することが効果的な指導方法の一つとして明示されている。本実践研究においては、研究対象を動詞の-ing形に定め、中学校1年生時における現在進行相、中学校2年生時における過去進行相及び動名詞、中学校3年生時における分詞の形容詞的用法のそれぞれの指導方法を提案し、それらを体系的に実践できる文法指導の在り方についても考察を行う。

3. アンケート調査の結果分析

実践実習校である長崎市立O中学校において、「中高生の英語学習に関する実態調査 2014」(ベネッセ教育総合研究所: 2014)を基にしたアンケート調査を2016年6月及び11月に行った。以下に、アンケート調査の結果についての分析を行い、生徒の英語学習に対する意識を明らかにする。

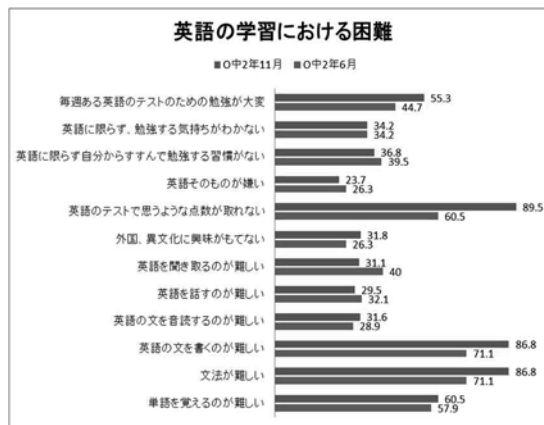
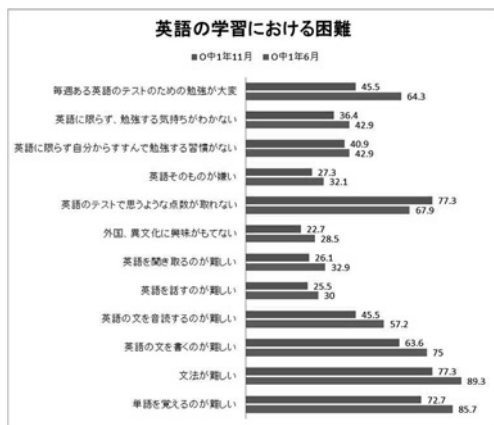
3. 1. 英語学習における困難

英語の学習において何を難しいと感じるかを解明するために、以下の12個の設問に対して、「とてもあてはまる」、「まああてはまる」、「あまりあてはまらない」、「まったくあてはまらない」の4件法で回答を取った。

英語の学習にかかわることについて、次のようなことはどれくらいあてはまりますか。

	とても あてはまる	まあ あてはまる	あまり あてはまらない	まったく あてはまらない
1. 単語を覚えるのが難しい	1	2	3	4
2. 文法が難しい	1	2	3	4
3. 英語の文を書くのが難しい	1	2	3	4
4. 英語の文を音読するのが難しい	1	2	3	4
5. 英語を話すのが難しい	1	2	3	4
6. 英語を聞き取るのが難しい	1	2	3	4
7. 外国、異文化に興味をもてない	1	2	3	4
8. 英語のテストで思うような点数がとれない	1	2	3	4
9. 英語そのものが嫌い	1	2	3	4
10. 英語に限らず 自分からすすんで勉強する習慣がない	1	2	3	4
11. 英語に限らず、勉強する気持ちがわかない	1	2	3	4
12. 毎週ある英語のテストのための勉強が大変	1	2	3	4

回答のうち、「とてもあてはまる」、「まああてはまる」と回答した生徒の割合は次の通りである。



各学年ともテストで思うような点数が取れないと答える生徒の割合が非常に大きいことがわかる。また11月の3年生の結果では大幅に減少しているものの、英語の文を書くのが難しい、文法が難しいと回答している生徒の数が多いことが特徴として挙げられる。一方で英語を話すことや聞き取ることに難しいと感じている生徒の割合は小さいので、文法学習の導入として音声を中心にした指導を取り入れることが有効な手立てであると考えられる。

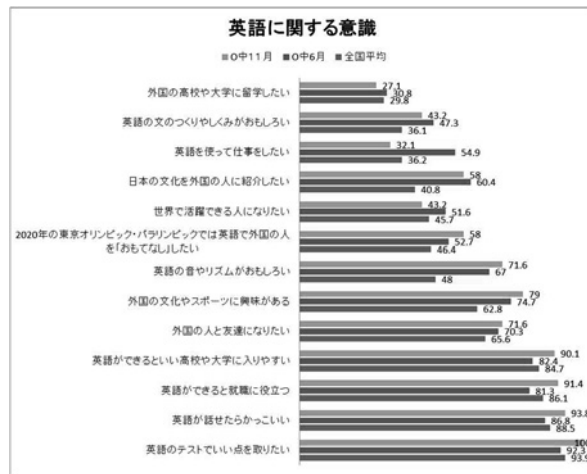
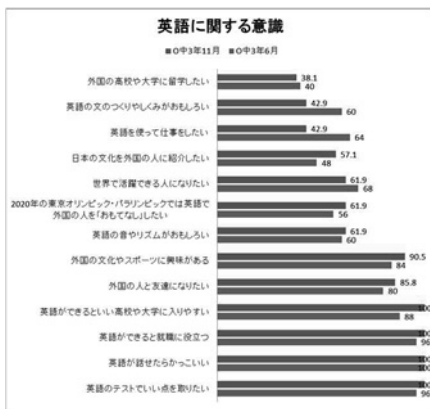
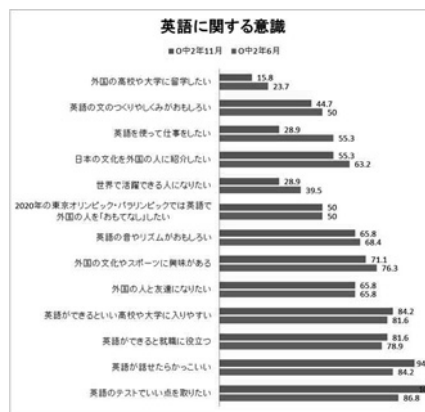
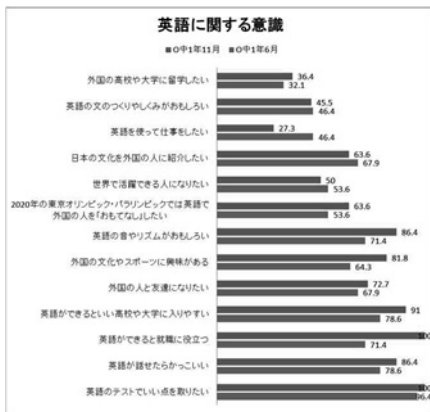
3. 2. 英語学習に関する意識

英語の学習について生徒がどのように思っているのかを以下の13項目の質問で調査した。なお、この設問についてはベネッセ教育総合研究所によって全国平均が示されているため、そのデータとの比較を行う。

あなたは、以下のことについてどう思いますか。

- | | | | | |
|------------------------------|------|------|--------|--------|
| | とても | まあ | あまり | まったく |
| | そう思う | そう思う | そう思わない | そう思わない |
| 1. 英語の音やリズムがおもしろい | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 2. 英語の文のつくりやしくみがおもしろい | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 3. 英語が話せたらカッコいい | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 4. 外国の人と友だちになりたい | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 5. 外国の文化やスポーツに興味がある | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 6. 英語のテストでいい点を取りたい | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 7. 英語ができるといい高校や大学に入りやすい | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 8. 英語ができると就職に役立つ | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 9. 外国の高校や大学に留学したい | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 10. 日本の文化を外国の人に紹介したい | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 11. 英語を使って仕事をしたい | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 12. 世界で活躍できる人になりたい | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 13. 2020年の東京オリンピック・パラリンピックでは | | | | |
| 英語で外国の人を「おもてなし」したい | 1 | 2 | 3 | 4 |

「とてもあてはまる」、「まああてはまる」と回答した生徒の割合は次の通りである。



「英語のテストでいい点数を取りたい」、「英語を話せたらカッコいい」など、英語ができるようになることへの憧れが全国平均と比べても強いことがわかる。その一方で6月の結果と比べると、11月には「英語を使って仕事をしたい」と回答する生徒の割合が各学年とも非常に小さくなっており、実際に生徒にインタビューを行った際にも、自分が将来英語を使って仕事をするのではないだろうと答える生徒が多かった。最初にアンケートを取った6月と

比べて、2 回目にアンケートを取った 11 月のほうが英語の学習内容は難しく、英語を使った職業に対して高い壁を感じるようになったことが要因の一つではないかと考えられる。

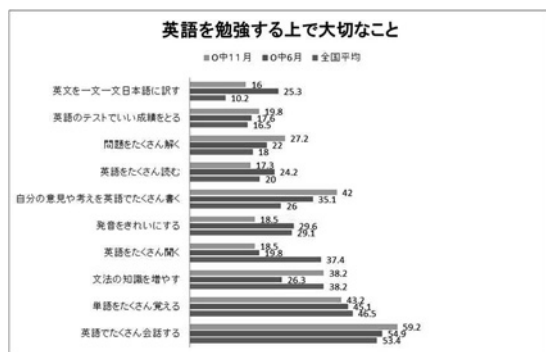
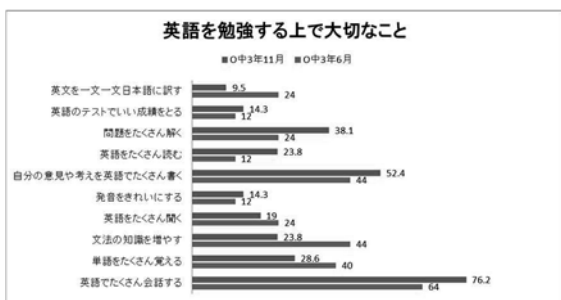
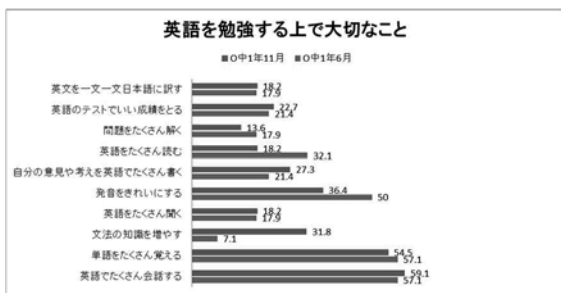
3. 3. 英語学習の上で大切なこと

生徒が英語を勉強する上でどのようなことを大切に思っているかを解明するために、項目を 10 個用意した。回答の際には、生徒は英語を勉強する上で大切だと思うものについて、10 項目のうち 3 つを選択する。なお、この設問についてもベネッセ教育総合研究所によって全国平均が示されているため、そのデータとの比較を行う。

英語を勉強する上で大切なことは何だと思いますか。次の中から大切だと思うものを 3 つ選び、回答らんに番号を記入してください。

1. 文法の知識を増やす
2. 英文を一文一文日本語に訳す
3. 単語をたくさん覚える
4. 発音をきれいにする
5. 問題をたくさん解く
6. 英語のテストでいい成績をとる
7. 英語をたくさん聞く
8. 英語でたくさん会話をする
9. 英語をたくさん読む
10. 自分の意見や考えを英語でたくさん書く

--	--	--



各学年とも、「自分の意見や考えを英語でたくさん書く」、「英語でたくさん会話する」など、アウトプット活動に対する意識が全国平均と比べて高いことがわかる。学年別の結果を見ると、特に 3 年生は、6 月時のアンケートよりも 11 月時のほうが割合が高い。これは、実習校である長崎市立 O 中学校では、各学年とも 1 年の間に定期的にスピーチ活動や作文の課題を設定しており、特に 3 年生にそれらの機会が多いためであると考えられる。

2度のアンケート調査を通して、実習校であるO中学校の生徒の実態を掴むことができた。生徒の意識として、英語ができるようになりたいという思いが強く、自己表現活動に対する重要性を強く感じているという特徴が挙げられることから、コミュニケーション活動に対しては多くの生徒が積極的に取り組むことが考えられる。しかしながら、文法学習やライティング活動に関しては難しいと感じている生徒が多いため、次のようなことが求められるであろう。まず、文法指導の際には生徒が比較的困難を感じにくいであろう、オーラルイントロダクションやオーラルインタラクションなどの音声を中心にした導入を行うこと、また、言語活動としてライティング活動を採用する際には、文法指導を丁寧に行い、英語が苦手な生徒でも文法事項に関する基本的なルールは理解させた上でコミュニケーション活動に従事させること、である。

4. 実践授業について

長崎市立O中学校において実践授業を行った。以下に、授業例の紹介を行うと共に授業の改善点や今後の展開を示すことによって、コミュニケーション活動につながる英語の文法指導の在り方について考察を行っていく。

4. 1. 音声を用いた導入

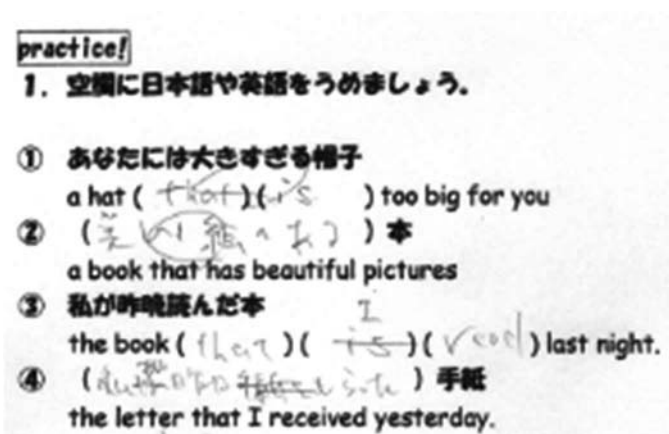
アンケートの結果から分かるように、生徒の多くが文法学習に対する苦手意識を感じている。一方で、生徒たちが授業を受ける様子を観察していると、英語を苦手と感じている生徒でもリスニング活動やスピーキング活動に対しては積極的に参加していた。そこで文法指導の導入を行う際にはできる限り音声を用いた導入を行い、文法事項の説明を行う際には、ターゲットセンテンスとなる英文のみでなく、英文が示す状況をパワーポイントのアニメーション機能を使って絵や写真と共に提示した。パワーポイントを用いたのは、教師に特別な技能がなくとも使える、時間をかけずに教材作成ができるという利点があったためである。

実際の授業として取り扱った単元は、3年生を対象にした分詞の形容詞的用法の導入である。分詞が持つ機能の一つである後置修飾という概念は、生徒にとって習得が困難であることが考えられるため、同様のスキーマを持つ関係代名詞の導入から授業実践を行うことで統一的なイメージの定着を図り、分詞への円滑な導入をねらった。授業においてパワーポイントのアニメーション機能を用いることによって、名詞を後ろから修飾するイメージを掴むことができるようにする、後置修飾のフレーズの捉えることができるようにする、英文の意味を前から考えることができるようにする、の3点を意図した。(図1)

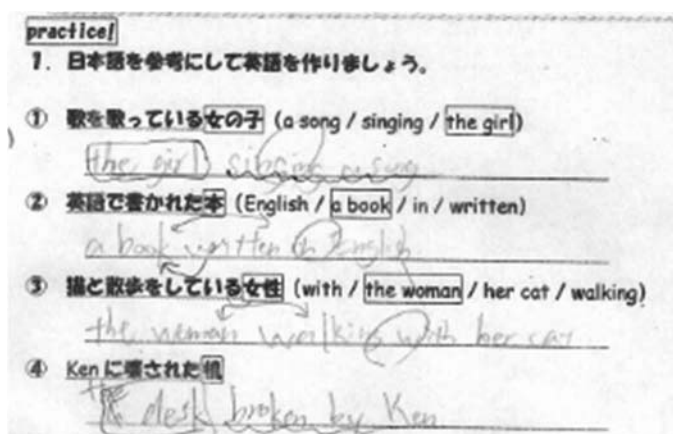


(図1 授業におけるパワーポイント使用例)

関係代名詞の導入から分詞の導入へと単元間のつながりを持たせることによって、関係代名詞の段階では、名詞を後ろから修飾するという概念を持っていなかった生徒でも分詞の授業に入った際には、ワークシートへの取り組み具合から、後置修飾特有の語順に意識を向けていることを読み取ることができた。(図2、3)



(図2 関係代名詞の授業における生徒 A のワークシート記入例)



(図3 分詞の授業における生徒 A のワークシート記入例)

このように、関係代名詞から分詞の形容詞用法までを後置修飾という一つのまとまった単元として指導することによって、情報量が多いものを後ろに置くという英語特有の文構造を、生徒が理解する手助けとなることが期待される。つまり関連のある文法事項は、まとまりをもって指導することが有効な手立てであると言える一例ではないだろうか。

4. 2. 発展的な文法指導

充実したコミュニケーション活動を実践するためには、導入した文法事項を円滑にコミュニケーション活動へつなげることが求められるであろう。文法の導入の授業では、英語が苦手な生徒であっても単純な英文を産出できるようにすることを目的としていた。しかしなが

らコミュニケーション活動においては、生徒たちは既習事項を組み合わせながら、文脈の中で適切に文法事項を用いることが求められる。そこで導入の授業とコミュニケーション活動の実践の間に、授業で取り扱う文法事項をどのように文脈の中で用いるのかを理解させる機会を設けることが必要であると考えた。

そこで発展的な文法指導として、文脈に沿うように関係代名詞と分詞の形容詞用法を挿入するという会話文の課題を設定した。課題の作成の際には Elbaum (2006: 370) による会話文の問題を参考にしながら、できる限り中学生でも理解可能な語彙にするために会話文の編集を行った。(図4)

Lesson 6 I Have a Dream

..

後置修飾まとめ Name. _____

..

Let's challenge!

以下の Aさんと Bさんの会話を読んで、空欄に当てはまる語句を考えましょう。正解はいくつかあります。..

..

A: I'm lonely. I have a lot of friends in my native country, but I don't have enough friends here. The friends α () send me e-mail, but I need to make new friends here..

..

B: Haven't you met any people here?..

..

A: Of course. But the people α () here don't have my interest..

..

B: What are you interested in?..

..

A: I like reading, going for quiet walks and watching TV. ..

..

B: Oh, your interests don't include other people. You should find some interests .. α () other people, like tennis or dancing..

..

A: The activities α () cost money, and I don't have a lot of money..

..

B: There are many parks α () free tennis courts in this city. In fact, there are a lot of things α () or very low cost in this city. I can give you a list of free activities, if you want..

..

A: Thanks. I'd love to have the list. Thanks for all the advices α ()..

(図4 授業で用いたワークシート)

授業では、後置修飾のまとめの授業であることを意識づけるために、ウォーミングアップとしてこれまでの導入で用いたパワーポイントを使って、既習の文の復習を行った。これまでは絵や写真と文を提示した後、教師の範読に続いて生徒がリピートをするという手順を取っていたが、本時では、アニメーション機能を用いたところ、絵や写真が電子黒板に映し出された段階で、生徒が自然に英文を発するなど、分詞形容詞用法の導入の授業において、アニメーション機能を活用することが有効であると感じられた。授業の後に生徒にインタビュー

一を試みたところ、関係代名詞の授業から分詞の授業まで、パワーポイントのアニメーション機能により絵や写真と英文が同時に一貫して提示されていたため生徒の印象に残り、英文を覚えていたとのことだった。

授業中に課した学習活動では、語彙の難易度を下げたといってもやはり中学生にとって課題を達成するのは難しく、多くの生徒が空欄に関係代名詞や分詞の形容詞用法を記入すれば良いとわかっているにもかかわらず、実際にはどのような語句を挿入すれば良いかまでは理解できておらず、生徒の学習活動への支援に時間を費やすことが多かった。したがって事前に教師によるスキットを通して会話文の場面理解を図るほか、生徒にとって馴染みのある教材を選定したり、中学生にとって妥当な難易度の課題を設定するべきであったと考えられる。(図5)

B: Oh, your interests don't include other people. You should find some interests (that include) other people, like tennis or dancing.

A: The activities (you tell me) cost money, and I don't have a lot of money.

B: There are many parks (having which have) free tennis courts in this city. In fact, there are a lot of things (which is free) or very low cost in this city. I can give you a list of free activities, if you want.

(図5 生徒のワークシート取り組みの様子)

4. 3. コミュニケーションへとつなげるために

これまでの実践授業を通して、後置修飾の導入の授業をコミュニケーション活動につなげるためには次の手順を踏むことが必要であると考えられる。(1) 生徒が、文法の導入によって、対象となる文法事項を含む簡潔な一文を作成できるようになる、(2) 発展的な文法学習においてその一文を文脈の適切な位置に挿入する練習を行う、(3) コミュニケーション活動において既習の文法事項を組み合わせながら適切な文脈で英文の産出を行う、である。これらの段階を踏むことでコミュニケーション活動が充実したものになり、(1) 英語における習熟度が高い生徒は、導入で学習した基本事項を基に、文脈の中で既習の文法事項を用いている例を参考にしながら、自分なりの英文を産出することができる、(2) 習熟度が低い生徒であっても、導入で身につけた文法事項を実際の使用例に当てはめながら、自力で課題を達成できる、のような予想ができる。

長崎市立O中学校における「学校教育実践実習」では、コミュニケーション活動の実践と評価まで達成することはできなかったが、3年生を対象に後置修飾のコミュニケーション活動として「行ってみたい国について紹介しよう。」というスピーチ活動を設定し、課題に対して生徒たちが取り組む様子を観察することができた。人や物をより詳しく説明する表現として後置修飾を学習した生徒たちは、文章を考えやすいテーマでスピーチの作成をすることができていた。生徒は事前にインターネットで調べてきた情報を基に、英語が得意な生徒は、

文法が持つ役割を考慮しながら既習事項を組み合わせることでスピーチを作成することができ、英語が苦手な生徒でも関係代名詞や分詞を用いながらスピーチの作成に意欲的に取り組むことができた。

以上のことから、コミュニケーション活動の設定においては、英語が得意な生徒も、苦手な生徒も共に、満足な状態で達成できる課題を作成することが必要なことであり、それを実現するためにも文法の導入からコミュニケーション活動の実施までの授業を、段階を踏んで構成しなければならないと考える。文法事項に関しても、それぞれを独立して教えるのではなく、関連した文法事項はまとまりをもって指導することで、生徒は効率的に英語を学習することができるのではないだろうか。

本実践研究報告書で取り上げた動詞の-ing 形は、教師として教育現場に出た際にも指導する機会が多くあるであろう。その際には、3年間を通して生徒に-ing 形の指導を行うことが重要であると考えられる。そのため、-ing 形を体系的に指導することの教育効果について検証することが必要である。本実践研究で取り扱うことのできなかった文法事項については、文法の導入からコミュニケーション活動の実践とその評価までを連続的に捉え、適切な単元指導の在り方について考察を行うことで、より効果的な指導法を追求していきたい。

参考文献

Elbaum, Sandra (2006) *Grammar in Context 2*, Massachusetts: Thomson Heinle.

文部科学省 (2011) 『中学校学習指導要領解説外国語編』 開隆堂.

文部科学省 (2014) 「今後の英語教育の改善・充実方策について 報告～グローバル化に対応した英語教育改革の五つの提言～」.

Web ページ

ブリティッシュカウンシル「ヨーロッパ言語共通参照枠(CEFR)と英語力検定試験」(2016年12月21日参照) <https://www.britishcouncil.jp/sites/default/files/pro-ee-lesson-level-cefr-jp.pdf>